プロジェクト「食の方舟」発起人会 設立趣意書

生命のタスキを未来につなぐ

私たち人類は、数十万年という遠い過去の祖先から生命のタスキを受け継ぎ、この世界に生きています。いま現在を生きる私たちの世代は、この生命のタスキを確実に、次の世代に手渡していかねばなりません。しかし、豊かであるはずの現代社会はいま、音を立てて崩れ始めているように見えます。気候変動、自然災害、戦争、環境破壊、増え続ける病気、理由を挙げればきりがありません。このままでは、タスキをつなぐどころか、社会そのものが私たちの世代で消滅してしまうかもしれません。

だれも問題にしない天然資源の浪費と枯渇

なかでも、もっとも懸念されるのは、生命の源である「食」の問題です。いまの人類の食を支えている農業において、肥料と農薬は必要不可欠とされています。しかし、肥料も農薬も、天然資源を採掘してつくられていることを、ほとんどの人は知りません。窒素肥料は天然ガスから、カリウム肥料とリン肥料はそれぞれ鉱石からつくられています。そして農薬は石油から。それらは、あと100年から200年で枯渇すると言われています。つまり、100年後の子孫は、私たち世代のせいで食べ物がなくなってしまうのです。実際には、資源の枯渇はもっと早いかもしれません。この問題を放置していて良いのでしょうか。

新しい食料生産システムが必要

実は、この問題については、ずっと以前から心配している人々がいます。中には行動を起こしている人もいます。たとえば、無農薬・無肥料で穀物や野菜を育てる自然農法は、100年以上も前から研究と実践が進み、いまでは大量生産できる技術にまで発展しています。しかし、理解者があまりにも少ないため、実践者はなかなか増えず、耕作面積もまだまだ微々たるものです。さらに深刻な問題があります。日本の伝統的な発酵技術でつくられる味噌や醤油の醸造所がどんどん廃業し、もはや風前の灯と言えるでしょう。しかも、発酵技術を支える木桶職人も消えかかり、伝統的な和食の技術と文化は根底から消滅しかかっているのです。いまこそ、これらの技術と文化を再生し、新たな食料生産システムを早急に構築する必要があります。

ひな形の提示

優れた農家が頑張れば、食の問題は解決するでしょうか。いえ、どんなに個人や企業が頑張っても、消費者の理解がなければ事業は止まります。優れた味噌や醤油の醸造技術がありさえすれば、食の問題は解決するでしょうか。これとても、良質な原料がなければ良質な味噌も醤油もできません。しかも、消費者の理解がなければ、製品は売れず、たちどころに事業は止まってしまいます。あるいは、良質な食料を消費者に届けたい販売者がいたとしても、農家や醸造所との信頼関係がなければ、仕入れることもできません。仕入れたとしても、消費者が買わなければ即廃業です。良質な食べ物は、生産・加工・流通・販売・消費まで、すべてのプロセスを経て、ようやく私たちの口に入ります。そこで、各分野の個人や事業者が個々に理想を求めるのではなく、初めからすべてつなぎ合わせて、システムのひな形をつくる取り組みを実際に続けてきました。

新プロジェクトの提案

基本は農薬や肥料に頼らない農作物の生産に始まり、その原料からつくられる味噌や醤油などの発酵食品、さらには味噌や醤油を使った漬物や焼き菓子などの加工品へと段階を経て進み、小規模ながらすべてがつながった食料生産システムのひな形が、15年の歳月を経て実現しました。そこで、この仕組みをさらに発展させ、より多くの人々が安心して食べられる本格的な食料生産システムを構築すべく、プロジェクト「食の方舟」を企画し、共感していただける仲間を求めて、ここにプロジェクトの発起人会を設立し、広く一般に提案することになりました。

一般社団法人の設立から本格始動

今後、発起人会での準備を経て、一般社団法人を設立し、本格的な食料生産システムの構築をスタートさせる方針です。具体的には、まだ未開拓の食品、例えば肉や魚、食用油脂、酒、みりん、砂糖など、早急に生産者や加工業者とのつながりを模索します。さらに、本プロジェクト支援者から希望があれば、生産や加工などのプロセスに新規で参加できるよう橋渡しをする役割も想定しています。また、本プロジェクトへの支援方法は、基本的に年間1万円の支援金を納入していただき、システム構築の運営費に充当する計画です。支援者には返礼として味噌・醤油のセットを毎年送るほか、本プロジェクトで取り扱う穀類や野菜、加工品

を、利益を乗せず製造原価に近い価格（荷造り運賃費を含む）で購入できる仕組みにします。

100年後の未来の食卓をつくる

本プロジェクトが発展すれば、そのまま100年後の子供たちの笑顔につながるでしょう。それだけではありません。本プロジェクトの発展は、実は私たち自身の笑顔につながるからこそ、その笑顔のタスキが未来に手渡されるものだと思います。私たちといっしょに、笑顔の食卓をつくっていきましょう。あなたのご参加をお持ちしています。

2026年10月8日

プロジェクト「食の方舟」発起人会代表　横内 猛